

もっと魅力が集まる島へ。
未来への取り組みは、もうはじまっています。

ポートアイランド・リボーンプロジェクトのこれから

検討中 地域活性化拠点の整備

大阪湾岸道路西伸部の開通に併せて、地域の賑わい創出につながる拠点の検討を行います。
※一部エリアについて暫定的に芝生広場を整備予定（令和7年度供用予定）

検討中 MICE誘致の競争力強化

国際会議や展示会が開かれる施設のリニューアルのあり方検討を行うため、大規模改修、機能拡充、民間資金を活用した事業手法などの調査を行います。
また、空港国際化を契機として、MICE誘致促進制度の拡充を行います。

検討中 ポートアイランドスポーツセンターの再整備

水泳・スケート競技及び市民のスポーツ振興の新たな拠点として、再整備を行います。

実施中 緑化の推進（中央緑地軸の再整備）

公共空間の質を高めるための取り組みの一環として緑化の充実を進め、人々の憩いの場となる緑豊かな滞在空間を創出します。
旧西神戸ゴルフ場からも樹木を移植します。

実施中 PORTOPIA DESIGN WALK 2024

歩きたくなる楽しい道になるよう、ポートピア大通りから市民広場にかけて島内の皆さんといっしょになった賑わいづくりの社会実験を実施しました。

実施中 港島学園の校舎一体化整備

小中一貫教育をさらに推進していくために、学園内の大規模改修に併せて、前・後期の校舎の一体化整備を行います。

実施中 青少年科学館のリニューアル

複数年にわたって全館の大規模リニューアルを実施します。

実施中 シェアキッチン社会実験

島内の飲食環境の改善や、人々の交流機会を創出することを目的に、シェアキッチン社会実験を実施しました。

Future of PORT ISLAND

ポートアイランドのこれまで

・第1期竣工
・ポートライナー営業運転開始
（世界初の無人運転システム）
・神戸ポートピア博覧会
「ポートピア'81」開催

1981年
（昭和56年）



・ファッションタウンまちびらき

1989年
（平成元年）



・神戸空港開港

2006年
（平成18年）



1987年
（昭和62年）

・第2期埋め立て工事着工
（～2010年（平成22年）竣工）

1998年
（平成10年）

・医療産業都市構想開始

2025年
（令和7年）

・神戸空港国際化
（国際チャーター便就航）

ポートアイランド・
リボーンプロジェクトに
関する詳しい情報はこちら →



発行：神戸市（都市局）
発行日：2025年3月25日

PORT ISLAND ポートアイランド・リボーンプロジェクト Reborn PROJECT



みんなでつながろう、
あたらしい島へ。

PROJECT CROSS TALK

藤村 龍至

東京藝術大学准教授／RFA主宰



PROFILE

1976年東京生まれ。(父は神戸市灘区出身)
2005年より藤村龍至建築設計事務所(現RFA)主宰。
2016年より東京藝術大学准教授。
2017年よりアーバンデザインセンター大宮(UDCO)副センター長/ディレクター、鳩山町コミュニティ・マルシェ総合ディレクター。
建築家として公共施設等の設計に関わりながら、さいたま市、埼玉県所沢市、鳩山町、愛知県岡崎市、台東区上野などで中心市街地や計画住宅地の活性化に関わる。神戸市では「ポートアイランドの将来像研究」をきっかけに「ポートアイランド・リボーンプロジェクト」に関わる。「神戸医療産業都市の将来像についての検討会」委員。

わって、新たな未来へ歩み出す。

湾岸道路西伸部の整備といったまちづくりの原動力になる事業がいくつかありますので、それらの個別の事業をエリア全体でコーディネートすることで「再未来化」は可能だと考えています。

久元 ポートアイランドは今、起こっている高齢化や少子化といった問題をある程度見越して未来をつくったのか、あるいは予測を超える変化に直面しているのか。未来を再未来化するということは、そういった今起きている現在を照射することでもあるので、そこに光を当てながら課題を解決する糸口あるいは処方箋がプロジェクトのなかで生み出そうことができれば、神戸だけではなく他の地域が抱えている問題に対する解決のヒントを得られるということにもつながるのではないかなという気がします。

藤村 全国でいろいろなまちに入って思うことは、まちの活性化は、まちの特徴を掘み、その特徴をうまく活かして新しいムーブメントの原動力にするというのが基本線で、例外はありません。ポートアイランドであれば例えばポートピア大通りの緑道沿いに緑の骨格があります。ただ建築の視点でよく見るとせっかく緑道沿いに大きな緑陰が広がっているにもかかわらず、その下で過ごすベンチやカフェなどの居心地の良い場所が空間として確保できていませんでした。「PORTOPIA DESIGN WALK 2024」では、道路上で地域の住民や学生がダンスや演奏などを行うだけでなく、隣接する緑道の斜面地の草を刈って過ごせるようにし、居心地をよくする実験を行いました。実はこの斜面は、宮崎市長時代に「ポートピア大通りはサンバカーニバルを開催するフラワーロードのようなシンボルストリートにするべきだから、その機軸席になるように」という考えで設計されたそうなのですが、これまでそのように使われることもなく、いつの間にか樹木が繁茂し、見通しも悪くなっていました。今回の社会実験をきっかけに手を入れていただいたので近過去で描かれたポートアイランドのまちづくりの理想像や理念を取り戻しながら、緑のもてでみんなが集ま

る公共空間を作るという近未来を描くことができました。このようにまちの空間の特徴や可能性を活かす取り組みを積みあげていくことで、いろいろな可能性を広げていけるのではないかなと思っています。

久元 緑というのは、リボーンプロジェクトを考える上で非常に大きなテーマです。機軸席の実現のようなまちづくり当初の理念を蘇らせるということは近過去を未来化するということで、非常に良いことだと思います。緑の再生、あるいは緑を増やすという取り組みに多くの企業や、市民の皆さん、あるいは来街者の皆さんに参画してもらうことができれば、リボーンプロジェクトにとって非常に有力な切り口になるだろうというふうに感じます。

島に住み、働き、学ぶひとたちが 一緒になって 未来へと発展できるポートアイランドへ

藤村 まちの近未来を描くときには、大体3年目ぐらいのタイミングで少し具体的な絵を描いていくとうまく動き出すと思います。そこで行政と民間との関係性が重要になるのですが、1980年代に「ファッションタウン」を実現した際には1973年に神戸商工会議所と神戸市が共同で「ファッション都市宣言」を打ち出したことがきっかけでした。リボーンプロジェクトも、もう一度民間と神戸市が一緒に議論をして新しいコンセプトやビジョンを打ち出していくフェーズではないかなと思っています。

久元 開発当初はゼロからの出発だったので、発展の鍵となるために神戸商工会議所が参画をしてくれたかと思うのですが、現在では、2期の医療産業都市も我が国を代表するバイオメディカルクラスターとなり、島内の企業や大学などの集積が進んだ今、ポートアイランドに関わる住民、企業をはじめとする島内関係者の方々と意見交換を前提とした、経済界との



連携ということが現実的ではないかなと感じています。

藤村 ポートアイランドでのまちづくりの話し合いに参加する中で気がついたことは、通常の行政と住民や企業との対話と雰囲気は異なることです。これは公共デベロッパー方式を進めていた「株式会社神戸市」の名残だと思うのですが、ポートアイランドの住民や企業にとって神戸市は行政というより「デベロッパー」になっていて、まちの「生みの親」に意見を述べているように感じることがあります。これを一回解いて、これからはパートナーという関係で、未来に向けてどう取り組んでいくかを考えることがポートアイランドの発展にとって重要だと思っています。

久元 パートナーという関係は、まさにその通りだと思います。大きく社会が変化し、かつてのデベロッパーとしての神戸市ではなくて、コーディネーターあるいはプラットフォームを提供する役割を市が果たしていく方向に転換をしていくための大きなアプローチがこのポートアイランド・リボーンプロジェクトではないかということを今、再認識させていただいたような気がします。

藤村 そのために、住民や企業、大学などの皆さんがパートナーとして一緒になって将来ビジョンづくりや課題解決をしていける、エリアプラットフォームをつくっていく取り組みを進めていますので、今後ともサポートをいただければと思います。

(この対談は2025年1月に実施されました)

ポートアイランド・ リボーンプロジェクトとは



神戸空港の国際線就航、
大阪湾岸道路西伸部の開通など、
近未来に向けてカタチをかえるポートアイランド。
その未来に向けて、島内で暮らすひと、学ぶひと、
働くひとがいっしょになって
島の魅力を育てるプロジェクトです。
まずは社会実験などに取り組みながら、
まちの将来ビジョンを策定していきます。



提供: 東京藝術大学藤村研究室

「港の島を、結び直す」

再整備で生まれ変わった三宮へ、空港からアジアへ、湾岸道路で大阪や播磨エリアへ。
ポートアイランドとまちの結び直しをめざします。
さらに島内のまちとひと、自然を結び直すことで、あたらしい島の魅力をつくっていきます。

Street Management

method.1

ストリートマネジメント

**みんなで
歩きたくなるまちに変えよう！**

- いつでも歩きたくなる楽しい道をつくる
- 立ち寄りたくなる魅力ある店をつくる
- 椅子や緑があって、長く居たくなるまち

Active Design

method.2

アクティブデザイン

**島の自然を探し、
みんなで健康になろう！**

- 朝も昼も夜も、あいさつが行き交う緑の道
- 海沿いの丘を、淡路島を眺めながら走る
- 自転車やあたらしい乗りもので、軽やかに移動

Nature-based Solutions

method.3

自然を基盤とした解決策

**島の気候と生物多様性を活かして、
いきいきとした島にしよう！**

- 樹木の陰や水をデザインし気温を下げる
- 魚がすみ、渡り鳥がどう池にひとでも集まる
- 緑豊かな島で、いきいきと暮らし、学び、働く

これまでの取り組み

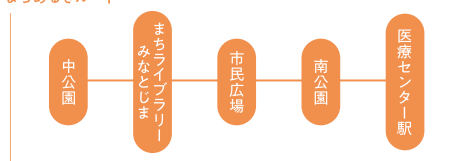
まちあるきスタディ
ポートアイランド

2024.2.10

島内のパブリック・スペースを中心に有識者と
市民の皆さんがいっしょにまちを歩きながら、まちの課題や
将来像の方向性を意見交換するワークショップを開催しました。



まちあるきルート



ワークショップ

主な意見

- 人々が交流できる場(カフェやマルシェ)が欲しい
- マーケットや食事ができる場所があると良い
- 若い世代や、子どもとその親同士が交流できる場所が欲しい
- ポートライナー高架下の空間を活用するべき

What's PORT ISLAND